

10 日本軍歐洲派遣ニ関スル交渉一件 大川田

民ノ年来抱持セル高尚ナル宿望ノ実現ハ吾人ノ切ニ祝福スル所ナリ

英國ニ取り今次戦争ノ齎シタル最モ顯著ニシテ且喜フベキ結果ノ一ハ日英同盟力事態ノ急ニ応シテ両帝國ノ利害ト感情トヲ十分満足セシムルニ如何ニ適シタルカヲ證明シタルコトニアリトス日本力全然日英同盟ニ忠実ナルノ事実ハ日本ヲ熟知スルモノノ信シテ毫モ疑ハサル所ナルモ吾人ハ之ニ対シテ満腔ノ感謝ヲ表セサルヘカラス日英協同作戦ハ同盟国相互ニ尊敬ノ念ヲ増シ且其關係ヲ密接ナラシメタリ日本国民ノ感情ハバーナジストン將軍

六六四

ノ東京ニ於ケル歓迎ニ由リテ最モ好ク表示セラレタリ同將軍ニ對スル日本ノ歓迎ハ吾人ハ深ク之レヲ認識セサルベカラス日本人ハ如何ナル國民モ之ヲ知己トシ又同盟トシテ誇ルニ足リ又其ノ軍隊ハ恐ルヘキ威力ヲ有スルト同時ニ慈愛心ニ富メル事實ヲ証拠立タリ日英協同作戦ハ同盟ノ裏書ヲナンタリトハ日本新聞ノ唱フル所ナルモ吾人ハ更ニ進シテ日英協同作戦ハ日本ヲシテ西洋文明國民ノ列伍ニ於テ確乎タル且名譽アル地歩ヲ得シメタリト云ハント欲ス

事項 I 独領太平洋諸島占領一件

大川田 九月十一日 在本邦英國大使ヨリ
加藤外務大臣宛

濠洲派遣隊ヤップ及ナウル占領ノ為進行中ナル

付注意方希望ノ件

Sir W. C. Greene, British Ambassador at Tokio
to Baron T. Kato, Minister for Foreign Affairs.
Private.

September 12, 1914.

With reference to our conversation of the 9th instant when we spoke of the forthcoming cruise of some ships of the Imperial Navy in the Marianne, Marshall and Caroline islands, I am desired by Sir Edward Grey to acquaint you very confidentially that an Australian expedition is now on its way to take possession of the islands of Yap and Nauru (Pleasant island), and I am to add that Sir Edward hopes that Your Excellency will be good enough to see that the cruise may be conducted so as not to conflict with the operations of the Australian ex-

pedition.

Yours sincerely,

Kato 九月十一日 在本邦英國大使ヨリ
濠洲派遣隊ノ行動通報ニ対シ表謝ノ件

Baron T. Kato, Minister for Foreign Affairs to
Sir W. C. Greene, British Ambassador at Tokio.
Tokio, Sept. 12, 1914.

Pray accept my thanks for your letter this morning the contents of which I have communicated to the Minister of Navy.

Yours sincerely,

Kato 十月二日 関議決定
日本軍占領下ノ南洋諸島ハ一時占領トスルヤ永

(註)久占領トスルヤニ関スル件大別紙「南洋諸島配備施設變更ニ付增加経費」ニ關スル件大

一一 独領太平洋諸島占領一件 六三八

六六六

正三年十月一日閣議ニ於テ八代海軍大臣ヨリ発議別紙記載
諸島ヲ一時占領シ場合ニヨリテハ永久占領トナシタキ旨意
ナル趣陳述アリ右ハ予テ同大臣ト加藤外務大臣ト内話シタ
ル處ト多少趣ヲ異ニセル次第ニモアリ旁々外務大臣ヨリ永
久占領ト一時占領トハ占領ノ方法ニ於テ異ナル處アルヤ否
ヤヲ質シタルニ海軍大臣ノ答ハ稍ヤ明確ヲ缺ケルモノノ如
クナリシモ要スルニ占領ノ方法ニ於テ別段異ナル事ナシト
ノ事ナリシヲ以テ加藤大臣ハ左ノ趣意ニテ海軍大臣ノ発議
ニ同意スヘキ旨ヲ述フ

別紙記載諸島ノ占領ハ軍事行動上ノ必要ニヨルモノニン
テ差當リ一時占領タルヘキコト尤モ該諸島ハ独領ナルカ
故ニ日本ニテ之ヲ占領セサレハ或ハ他ノ交戦國ニ於テ必
ス之ヲ獲得スルニ至ルヘキカ故ニ自然我国ニ於テ永久ニ
占領スルヲ必要トスルニ至ルコトモ之アルヘシト雖モ此
ノ如キ事態ハ今後時局ノ推移ニ顧ミテ講究決定スル事ヲ
要シ今ヨリ永久占領ノ意志ヲ以テ占領スルモノナルコト
ヲ定メ置クコト能ハス故ニ今回該諸島ノ占領ハ差當リ一
時ノモノトナシ之ヲ永久占領トナスヘキヤ否ヤハ戰後諸
問題解決ノ際ヲ俟テ決定スヘキモノトス

右ノ趣旨ニアラサレハ外務大臣ハ責任上同意スル事能ハサ

六三九 十月十二日 加藤外務大臣ヨリ
在米国珍田大使宛（電報）

南洋諸島ノ占領ガ一時的又ハ永久のナリヤニ閑
シ「コソミット」セザル様指示ノ件

第二七四号

帝国海軍カ南洋獨領諸島ノ一部ヲ軍事的ニ占領シタルハ獨
逸軍艦ヲ殲滅シ商業航路ノ安全ヲ計ルカ為ソノ策戦上ノ必
要ニ基ケル措置ニシテ更ニ此等諸島ヲ永遠ニ我國ニ於テ占
領スヘキヤ否ヤハ膠州灣ヲ支那ニ還付スルヤ否ヤノ問題ト
同様帝國政府ニ於テ今後形勢ノ推移ニ応シ慎重ニ考慮ノ上
確定スルヲ要スヘキモノナル事勿論ノ義ナルニ付貴官ハ右
御含ノ上内外ノ諸新聞ヲ指導セラル、ニ当リテモ右占領ノ
一時的ナルヤ永久的ナルヤニ付テハ何レトモ堅ク「コソ
ミット」セラレサル様致シタシ近時日本ノ南洋諸島占領ハ
一時ニ止ル旨日本ヨリ米國政府ニ保障シタリ又ハ膠州灣ハ
支那ニ還付スヘシ等ノ誤報新聞紙上ニ伝ハリ居ルニ付念ノ
為電報ス

本電訓令トシテ在紐育、桑港、シアトル、市俄古、ボーラ
ンド、オタワ、晚香坡、ホノルル各領事ヘ転電アレ

ル旨ヲ述ヘ大隈總理大臣ハ右ノ趣意ニテ定メ置ク事然ルヘ
キ旨述ヘ海軍大臣モ之ニ同意シ他ノ内閣諸大臣ハ別段ノ意
見ヲ述ヘタルモノナク結局前記趣意ニテ一時占領ヲ行フ事
ニ決定ス

註 別紙ハ外務省記録ニ存セズ

六三八 十月七日 在シドニー清水總領事宛
加藤外務大臣ヨリ
(電報)

ヤルート島占領ノ模様通報ノ件

第三五号

南洋方面ノ敵艦殲滅ノ任務ヲ有スル我艦隊ノ一部ハ敵ノ根
拠地ノ一タル「ヤルート」島ヲ攻撃シ敵官憲ノ降服ヲ容レ
島内ニ拘禁中ノ同胞一名ヲ救出シ且抑留中ノ英國船一隻ヲ
解放シタリ該英國商船ハ貴地 Burns Philip ノ持船
Induna 号ナリ

六四〇 十月十二日 加藤外務大臣ヨリ
在米国珍田大使宛（電報）
第一、第二南遣枝隊ノ南洋諸島ニ於ケル活動情
況通報ノ件

第二七五号

往電第二六九号ニ閑シ Jaluit ロ占領シタル第一南遣枝隊
ハ附近ノ島嶼ヲ索敵シタルモ異状ヲ認メサリシニ依リ十月
三日 Marshall 群島ヲ占領シ軍政ヲ布ク旨ヲ山屋司令官
ノ名ニ於テ全島ニ布告シ守備隊ヲ Jaluit ニ留メタル上同
日同地ヲ発シ五日 Caroline 群島 Kusae 島着支障無ク之
ヲ占領守備隊ヲ留メ七日 Ponape 島ニ達シ抵抗ヲ受ケス
シテ之ヲ占領シ東カロリン群島ヲ占領シタル旨同司令官ノ
名ニ於テ同島ニ布告セリ

第二南遣枝隊ハ英國支那艦隊司令官ノ注意ニ基キ七日 Yap
島ニ達シテ陸戦隊ヲ揚ケタル廻敵ハ港内ニ潜伏セル孤逸軍
艦 Planet ロ自沈シ又先ニ英國艦隊ノ為破壊セラレタル無
線電信設備ノ代リニ「プラネット」ヨリ取外シ架設シ居リ
タル小規模無線電信所ヲ爆破シ有線電信所ノ送信機ヲモ破
毀セリ我陸戦隊ハ山中ニ拘禁同様ノ邦人七名ヲ救出シ一時
同島ヲ占領セリ

一一 独領太平洋諸島占領一件 大四一 大四二

右内密ノ含迄ニ在英大使ニ転電アリタシ

Above Note was handed over, October 14, 1914, by
Sir W. C. Greene, British Ambassador at Tokyo, to
Baron T. Kato, Minister for Foreign Affairs.

大四一 十月十三日 在本邦英國大使使ヨリ 加藤外務大臣宛

日本軍ヤツア島攻略ニ付表謝並濱洲軍ノ同島切

領ノ意図不変ナル旨通報ノ件

British Embassy at Tokio to the Gaimusho.

I am much obliged for the communication made to you by the Minister for Foreign Affairs with regard to the Island of Yap and you should cordially thank His Excellency for it.

We recognize that the landing of the Japanese was a strategical necessity and appreciate the value of the services rendered thereby. It still remains the intention of the Australians to occupy the Island and we will inform you of the date on which they are likely to be able to carry out this operation.

British Embassy,

Tokyo.

October 13th. 1914.

公表シ以テ一般世上ニ及ホスヘキ反響ヲ探リ且ツ成ルヘク速ニ已成ノ事実トシテ人心ヲ之ニ憤レンシムル手段トスルモ然ルヘキカト思考スル処右公表ノ米國公論ニ及ホスヘキ反響ニ関シ参考迄ニ貴官御見込承知シタキニ付何分御意見至急回電アリタシ

大四二 十月十九日 在蘭國幣原公使ヨリ 加藤外務大臣宛

蘭國局外中立ガ蘭領印度ノ對日關係ニ及ホス影響ニ關スル「カイペー」氏論説訃報ノ件

(十一月二十一日接受)

大正三年十月十九日 在蘭

特命全權公使 帰原喜重郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

今回ノ戰乱ニ対スル當國官民ノ態度ハ一ニ嚴正中立ヲ維持セントスルニ在リ而シテ右ノ中立維持力特ニ日本ト蘭領印度トノ關係ニ於テ重要ナル所以ニ関シ頃日蘭國ノ名士「ドクトル・カイペー」(Dr. Kuyper) ハ其關係セル新聞紙

一一 独領太平洋諸島占領一件 六四三

六六八

大四二 十月十五日 加藤外務大臣ヨリ 在米國珍田大使宛(電報)

日本海軍ノ南洋方面占領ヲ在英大使ニ転電並ニ

右事実公表ノ米國輿論ニ及ボス反響ニ関シ意見

回電方訓令ノ件

第一一七九号

往電第二七五号ニ閔シ第一南遣枝隊ハ其後 Ponape 島ニ守備隊ヲ留メタル上十一日 Truk 群島ニ進ミ独逸海軍測量船一隻ヲ捕獲シ十一日陸戰隊ヲ政厅所在地ニ揚ケ抵抗無ク之ヲ占領シ同群島ノ占領ヲ布告セリ

第二南遣枝隊ハペラオ群島占領ノ為矢矧ラ急派シ同艦ハ八日同群島着陸戰隊ヲ Gorör ニ揚ケ無抵抗ニテ同地一帯ヲ占領セリ Parao

右内密ノ含迄ニ在英大使ヘ転電アソ
南洋方面ニ於ケル帝國海軍ノ活動ニ付テハ Jaluit 占領ヲ除ク外未タ公表ノ運ヒニ至ラサル次第ナル處此際右事実ヲ占領セリ

「スタンダード」上ニ於テ左記趣旨ノ論説ヲ掲ケ居リ候
八月十五日発刊ノ瓜哇新聞紙「ロコモティーア」ハ今回ノ戰亂ニシテ永引ク場合蘭領印度ハ日本人ノ侵略ヲ憂フヘキヤノ問題ヲ正面ヨリ論議シ居レリ 記者ハ右ノ問題ニ対シ「否」ト断定シ且ツ曰ク「日本カ強力ニ依リ我防禦ナキ殖民地ヲ侵略センカコレ固ヨリ我ノ苦ム所ナリト雖モ現実ニ右ノ危險アルハ唯我國カ中立ヲ失ヒタル場合ニ存スルノミ其場合我國ニシテ協商三国側ニ立タンカ日本ハ我同盟者タルヘキモ若シ然ラスシテ独墮ニ与センカ英日仐露ノ諸国ハ直ニ我屬領ニ進撃シ来ルヘク事茲ニ至ラハ我将来ヤ知ルヘキナリ」と
我印度領ヨリ如上ノ言説ヲ聞クハ吾人ノ喜フ所ナリ實ノ所
今日ニ至ル迄我國人ハ我殖民地ニ対スル關係ニ於テ局外中立ヲ維持スルノ必要アル所以ヲ十分ニ顧慮セサリン様思ハル世人若シ我屬領ニ重キヲ置クコト一層大ナラハ嚴正中立ニ注意スルコト從來ヨリハ更ニ大ナルニ至ルヘシ否一旦局外中立ニシテ破レンカ一國民トシテノ吾人ノ存否ハ疑問タルニ至ルヘシ
右「カイペー」氏ハ曩ニ當国内閣議長タリシヨトアリ且ト上院ニ議席ヲモ有スルモノニシテ以上ノ言論ハ當國ノ局外

六六九

一一 独領太平洋諸島占領一件 六四四 六四五

六七〇

中立殊ニ対日本関係ニ就キ当國人士ノ意向ヲ知ル上ニ多少ノ参考トモ可相成認候条右訳報申進候 敬具

六四四 十月三十日 加藤外務大臣 在本邦蘭國大臣 会談

蘭領印度ニ於テ中立違反ノ事実ナキ旨並日本人ニ対スル態度ニ付蘭國大使言明ノ件

大正三年十月三十日蘭國公使來省大臣ニ対シ先づ今日ハ善キ報道ヲ齎シ來レリト 前置シタル後先頃來蘭領ニ於テ何カ中立違反ノ行動ニテモアリタルヤニ伝ヘラレ居ル處取調ノ結果右ハ事実無根ニテ彼ノ地方ニ於テモ嚴ニ中立ヲ恪守シ居ル趣判明シタリト述べ尚語ヲ繼ギ又瓜哇邊ニテ往々日本ノ軍事探偵トシテ監視シタルコトアリシ由ノ處右ニ付過日同地総督ハ司法長官ヲシテ警察官憲ニ対シ今後漫リニ日本人ニ対シ右様ノ取扱ヲ為スベカラス若シ嫌疑存スルコトアルモ十分取調ノ上ニ非ナレハ拘留スルヲ許サス万一拘留ノ必要アルトキト雖其取扱可成苛酷ニ亘ラサル様注意スヘシトノ趣旨ヲ訓令セシメタリトテ右訓令ノ英訳文ヲ読ミ上ケタリ(公使ノ英語不十分ニテ聞キ取り難カリシモノノ如シ)依テ大臣ハ右報道以上ノ趣旨ト相違ナカリシモノノ如シ

六四五 十一月十九日 在米國珍田大使(ヨリ)加藤外務大臣宛(電報)

太平洋諸島ヲ日本ヨリ濠洲軍ニ引継ニ閃シ濠洲国防大臣公式声明ノ件

第四三〇号

十一月十八日 シドニー発新聞電報ハ濠洲国防大臣 G. F. Pearce カ大要左ノ公式声明ヲナセル旨報シ居レリ 日本ハマーシャル其他太平洋ニ在ル独領諸島ヲ濠洲軍隊ニ引継カシ事ヲ英國政府ニ通知シ英國政府ハ之レヲ承諾シタルニ由リ特別任務ニ服スヘキ濠洲軍隊ハ右諸島ニ派遣セラレ戦争終了迄之ヲ占領スヘシ

六四六 十一月二十一日 在シドニー清水總領事ヨリ 加藤外務大臣宛(電報)

南洋諸島引継ニ関スル濠洲国防大臣ノ声明ハ公報ナル件

第七一号

貴電第四三号ニ関シ御来示ノ如キ記事ハ Colonel pathbridge ラ西北太平洋ニ於ケル濠洲「コムミッソナー」

ニ任命セル説明トシテ十一月十八日濠洲国防大臣カ「マルボルン」ニ於テ公表シタル所ナリトテ十一月十九日当地及メルボルン等ノ諸新聞紙上同文ニテ掲載セラレタルモノニシテ其後政府ニ於テ之ヲ否認シタルコトヲ聞カサルニヨリ其公報タルコト疑フノ余地ナシ本官ハ十一月二十三日当地ニ於テ外務次官及前記コムミッショナート面会ノ予定ナルニ付夫トナク之ヲ突止メ若シ相違アレハ電報スヘシ又右公表ハ日本國ノ行動カ公明正大ニシテ一点ノ禍心ナキ証拠ナリトテ當國ノ輿論ハ大ニ感嘆ノ意ヲ表シツツアリ

一一 独領太平洋諸島占領一件 六四六 六四七

ニ対シ謝意ヲ表シ了承ノ旨述ベラレタルニ公使ハ余談トシテ貴國海軍ハ「マリアナ」「カロリン」等ノ諸島ヲ占領シタル趣ナルガ蘭領ハ未タ大丈夫ナルヘキヤト尋ネタルニ付大臣ハ蘭領諸島ハ大分遠キ様ナリ兎ニ角同方面ニ於ケル海軍ノ行動ニ付テハ自分ハ余リ承知セズト答ヘラレタリ

六四七 十一月二十二日 在シドニー清水總領事宛(電報)

日本艦隊占領ノ南洋諸島ヲ濠洲軍隊ニ引渡ストノ風説ハ無根ナリト濠洲官憲ニ通告方訓令ノ件

第四四号

貴電第七一号ニ關シ日本政府ハ其艦隊カ占領シタル南洋諸島ヲ濠洲遠征軍ニ引渡ス考ニテ其旨異英國政府ニ通告シタリ云々ト云フカ如キ事ハ全然無根ニテ本件ニ付テハ濠洲官憲ニ於テ何等誤解アルヘシト存セラルニ付不日英國政府ニ誤報訂正ニ關シ措置方申入ルル筈ナルモ貴官廿三日濠洲官憲ニ面会ノ節右御含ノ上然ルヘク應答セラルヘシ尤モヤップ島タケハ最初ヨリノ行掛アリ日本艦隊ニ於テ濠洲遠征隊ニ引渡ス事トナルヘキニ付貴官限リ内々御含アリタシ又貴地新聞紙ニ登載セラレタル国防大臣公表ノ要領電報アリタシ

一一 独領太平洋諸島占領一件 六四八 六四九

六七一

六四八 十一月二十二日 加藤外務大臣（ヨリ）
在英國井上大使宛（電報）

南洋諸島占領問題ニ関スル濠洲国防相ノ声明ニ

付日本政府ノ意向伝達方ノ件

第三一三号

在米大使ヨリ貴官ニ転電シタル同大使來電第四三〇号及本

大臣發同大使宛往電第三二三号ニ關シ濠洲官憲大臣ノ声明
ナルモノ果シテ公表セラレタル次第ナルヤ否ヤ在シドニー

總領事ニ問合セタル處其返電ニヨレハ去ル十八日同大臣ニ

於テ声明ヲナシタル事疑ナキモノノ如シ然ルニ現ニ帝國艦隊ノ占領セルマーシャル、マリアナ、カロリン、バラオノ獨領諸島ハヤップ島ヲ除クノ外依然我ニ於テ其占領ヲ繼續スル積リニシテ在米大使宛往電第三二三号所述ノ如ク之等ノ島嶼ヲ濠洲軍隊ニ引継カン事ヲ英國政府ニ通告シタルカ如キ事ハ全然之レナキ義ニ付濠洲官憲側ニ於テ何等カ誤解アルモノト察セラル尤モヤップ島ニ關シテハ別電第三一四号ノ如キ行掛アルニ付何時ニテモ濠洲軍隊ニ引継クヘキ筈ナルヲ以テ右ノ誤解ハ或ハヤップ島問題ニ基ケルモノニハアラサルカト察セラルモ何レニセヨ濠洲官憲側ニ右様ノ誤解アルハ他日事ノ齟齬ヲ來タスヘキ處ナシトセサルニ付

軍派遣ヲ實行スルカ如キコトアランニハ双方官憲ノ間ニ行違ヲ生スヘキ處アルニ付更ニ殖民大臣ト相談ノ上濠洲官憲ニ對シ早速注意ノ電訓ヲ發送スルコトニ取計フヘシト語ラレタリ外務大臣ハ尚英國政府ノ見解ニテハ目下同盟軍ニ於テ占領中又ハ将来占領スルコトアルヘキ逸國領地ハ其太平洋ニ在ルト將タ阿弗利加方面ニ在ルトヲ問ハス之カ处分ハ總テ戰爭終止後ニ於ケル同盟各國間ノ商議ニ附スヘキモノナリ右ハ在日本英國大使ニモ最近電訓中申置キタル次第ナリト言明セラレタリ

在歐米各大使ヘ転電シ在歐米各公使ヘ郵報ス

六五〇 十一月二十四日 加藤外務大臣（ヨリ）
在本邦英國大使

ヤップ島ノ濠洲海軍ヘノ授受ヲ海軍省ヨリ松村
第二南遣枝隊司令官ニ訓令ノ旨通報ノ件

政機密送第二四号

以書翰啓上候陳者本月十七日附ヲ以テ御通牒相成候濠洲遠征軍ハ帝國艦隊ト交代シヤップ島ヲ占拠センカ為本月二十五日シドニー發同島ニ向フヘキ旨ノ濠洲海軍省ノ電報ニ基キ海軍々令部長ヨリ松村第二南遣枝隊司令官ニ対シ麾下ノ

右誤解訂正方濠洲官憲ニ對シ訓令スルヤウ英國當局者ノ注意ヲ惹キ置カレタシ
本電ハ別電ト共ニ在歐米各大公使ヘ参考迄ニ転電アレ

六四九 十一月二十四日 在英國井上大使（ヨリ）

加藤外務大臣（ヨリ）
在英國井上大使宛（電報）

ヤップ外一島ヲ濠洲軍ニ於テ交代占領ニ關シ英

国外務大臣訖明ノ件

第四七三号

貴電第三二三号及第三一四号ニ關シ十一月二十二日英國外務大臣ニ面会シタルニ同大臣ハ実ハヤップ島及 Angaur 島濠洲軍隊ニ於テ交代占領ノ件ニ付過日在日本英國大使ニ於テ加藤男ニ会談ノ際同男ハヤップ島ハ最初ヨリノ行懸セアリ濠洲軍隊ニ引続クヘキモ Angaur 島ハ引続キ日本軍ニテ占領スル積ナリト答ヘラレタリトノコトニ付殖民大臣ト協議ノ上濠洲官憲ニハ此際ノ軍隊派遣ハヤップ島丈ニ止ムヘキ旨發訓ト同時ニ其旨在日本英國大使ニモ十一月二十三日發電シタル所ナリト述ヘ濠洲官憲大臣ノ言明ナルモノニ付テハ同大臣ニ於テ何等承知スル所ナキモ万一濠洲側ニ於テ何等カノ誤解ヨリマルシャル群島其他ノ諸島ヘ占領

一艦ヲ同島ニ置キ遠征隊到着ノ上同島授受ノ手続ヲ為サンムヘキ旨訓令有之候趣海軍大臣ヨリ通知有之候間右ニ御承知相成度右申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

六五一 十一月二十五日 加藤外務大臣（ヨリ）
在本邦英國大使 会談

濠洲政庁ノ誤解及マリアナ諸島ノ運命等ニ關ス

ル件

大正三年十一月二十五日英國大使來省ノ際大臣ヨリ前日同大使ヨリアンゴール島ニ濠洲遠征隊ヲ送ラサルコトトナリタル件ニ關スル英国外務大臣來電ノ写ヲ送リ越シタルニ對シ謝意ヲ表セラレ尚先日会談ノ次第ハ井上大使ニモ電報シ置キタル處同大使ト「サー、エドワードグレー」トノ会談要領ヲ電報シ來レリトテ同大使來電第四七三号前段ノ要領ヲ述ヘラレ新聞紙上ニ濠洲国防大臣ノ言明ナリトテ太平洋ノ凡テノ独逸領諸島ヲ濠洲軍憲占領ノ下ニ置クヘキ

旨見玉居ル処右ハ吾人ノ了解ト異ナリ居ルニ付井上大使ヲシテ右言明ノ真否ヲ問合サシメタル次第ナリトテ前記井上大使來電中段ノ要領ヲ語ラレ又在シドニー總領事ノ電報

一一 独領太平洋諸島占領一件 六五二

六七四

(清水總領事來電第七三号)ニ依レハ濠洲政府誤解ノ原因
ハ英本国政府ヨリノ來電ニ Yap and other islands トア

リタルヲヤップ其他太平洋上独逸領ノ全部ト解シタルニ在

ルモノノ如シトノコトナリト附言セラレタルニ大使ハ井上

大使來電末段独逸領地処分ニ関スル点ハ先日本国政府ヨリ

ノ電報中ニアリタレトモ別段閣下ヘ申出ツベシトノ訓令ナ

カリシ故申述ヘサリシ次第ナルカ此点ニ関スル貴見如何ト

尋ネタルニ付大臣ハ右ハ別段異存ナシ尤日本ノ占領セル諸

島就中マリアン群島ノ如キハ日本ニ最モ近ク我小笠原ノ連

鎖トモ云ヒ得ル位ニテ濠洲トハ余程懸ケ離レ居レリトテ

現ニ我軍ノ占領ニ係ル諸島ハ自然我国ノ有ニ帰スヘキ運命

ヲ有スルモノナルヘキ趣旨ヲ暗示シ置キタリ

次ニ英國大使ハ英國支那艦隊司令官サー、トマス、ジエラ

ム中將ヨリ板内中將及其部下ノ軍艦ノ援助ニ対シ満足ノ意

ヲ表スル旨來電ニ接シタル趣ヲ以テ別紙ノ通ノ書翰ヲ提出

シタルニ付大臣ハ之ハ誠ニ親切ナル電報ナリ早速其筋ヘ移

牒シ置クヘシト答ヘラレタリ

府ヘ電報シ置クヘシト述ヘタルニ付承知ノ旨ヲ答ヘラレタ

リ

六五三 十二月一日 加藤外務大臣 在本邦英國大使 会談

日本軍占領下ノ南洋諸島問題ニ関スル件

附屬書一 十二月一日加藤外務大臣ヨリ在本邦英國大

使ニ手交ノ口上書

日本軍占領下ノ南洋諸島ニハ濠洲派遣隊ノ

航行ヲ希望セザル件

一 十二月一日加藤外務大臣ヨリ在本邦英國大

使ニ手交ノ機密覺書

日本國民ハ赤道以北ノ独領諸島全部ノ領有

ヲ主張スベキニ付英國政府ノ支持期望ノ

件

(附屬書一)
甲号

十二月一日加藤外務大臣ヨリ在本邦英國大使ニ手交ノ口上書

ヲ希望セザル件

Note Verbale.

With reference to His Excellency the British Ambassador's inquiry at his interview with Baron Kato on the 27th of November, Baron Kato begs to state that all the Islands of the Marianne, Pelew, Caroline, and Marshall groups are now in occupation of the Japanese Naval forces and that it is desired that the contemplated Australian Expedition should not visit any of the Island in the aforementioned groups. The exception can however be made in the case of the Island of Yap as to which a previous understanding exists and from which if desired the Japanese forces will be withdrawn on the arrival of the British forces.

大正三年十一月一日英國大使大臣ノ求ニ応シ來省大臣ヨリ
十一月二十七日ノ会談ニ於ケル南洋諸島占領ニ関スル談話
ニ關聯シ日本軍占領ノ下ニ在ル諸島ヲ列記セル別紙甲号写
ノ通ノ口上書及南洋方面ニ於ケル日本分ケ前期望ノ件ニ関
スル別紙乙号ノ通ノ機密覺書ヲ手交セラレタルニ英國大使
ハ右早速本国政府ヘ電報スベキ旨ヲ約セリ

一一 独領太平洋諸島占領一件 六五三

六五二 十一月二十七日 加藤外務大臣 在本邦英國大使 会談

南洋諸島占領問題及日本國民ノ期待ニ関スル件

(清水總領事來電第七三号)ニ依レハ濠洲政府誤解ノ原因
ハ英本国政府ヨリノ來電ニ Yap and other islands トア

リタルヲヤップ其他太平洋上独逸領ノ全部ト解シタルニ在

ルモノノ如シトノコトナリト附言セラレタルニ大使ハ井上

大使來電末段独逸領地処分ニ関スル点ハ先日本国政府ヨリ

ノ電報中ニアリタレトモ別段閣下ヘ申出ツベシトノ訓令ナ

カリシ故申述ヘサリシ次第ナルカ此点ニ関スル貴見如何ト

尋ネタルニ付大臣ハ右ハ別段異存ナシ尤日本ノ占領セル諸

島就中マリアン群島ノ如キハ日本ニ最モ近ク我小笠原ノ連

鎖トモ云ヒ得ル位ニテ濠洲トハ余程懸ケ離レ居レリトテ

現ニ我軍ノ占領ニ係ル諸島ハ自然我国ノ有ニ帰スヘキ運命

ヲ有スルモノナルヘキ趣旨ヲ暗示シ置キタリ

次ニ英國大使ハ英國支那艦隊司令官サー、トマス、ジエラ

ム中將ヨリ板内中將及其部下ノ軍艦ノ援助ニ対シ満足ノ意

ヲ表スル旨來電ニ接シタル趣ヲ以テ別紙ノ通ノ書翰ヲ提出

シタルニ付大臣ハ之ハ誠ニ親切ナル電報ナリ早速其筋ヘ移

牒シ置クヘシト答ヘラレタリ

大正三年十一月二十七日英國大使來省別紙十一月二十三日乃至二十七日ノ南洋諸島占領ニ関スル英國外務大臣來電写五通ヲ差出シ大臣ノ一覽ニ供シタルニ付大臣ハ一読ノ後委細了承ノ旨ヲ述ヘラレ尚英国外務大臣ト殖民大臣トノ間ノ話ニアンゴール以外ノ諸島ノコト問題トナリタルハ embarrassing ナリトノコト見ユル処日本ハ好ミテカル問題ヲ此際提出シタルニハ非ス濠洲國防長官ノ聲明ナルモノカ如何ニモ汎博ニテ却テ夫レカ日本ニ取り embarrassing ナリト思ヒタルナリ又は等諸島占領ニ関スル了解ハ一時的ノモノニシテ最後ノ決定ハ講和ノ際ニ待タサルヘカラスト云フコトハ主義ニ於テ異論ナケレトモ日本海軍ノ行動ハ戰局ノ推移ニ伴ヒ其區域頗ル汎博ニ亘リ居リ國民一般ハ上下共此南洋方面ニ於テ右日本ノ行動ニ対スル相應ノ分ケ前ヲ得ヘキコトヲ期望シ居レハ若シ万一戰後反対ノ結果トモナランニハ到底非常ナル物議ヲ來スラ免レサルヘン此事ハ十分了解シ居ラレンコトヲ望ムト附言セラレタルニ大使ハ右最後ノ点ニ付口上書ニデモシテ頂戴スレハ本国政

(欄外註記)
〔大正二年十一月一日閣議決定〕

六七五

一一 独領太平洋諸島占領一件 KHII

口 上 書

(右和文)

十一月二十七日加藤男爵トノ会見ニ於テ為サレタル英國大使閣下ノ御問合ニ對シ加藤男爵ハ次ノ通牒陳致サントス即マリアナ、ペルウ、カロリン及マーシャルノ諸群島ハ今現ニ日本海軍軍隊ニテ占領セラレ居レリ而シテ予テ計画ニ係ル濠洲派遣隊ハ上記諸群島ノ孰レノ島嶼ニモ航行セサルコト願ヘシキ儀ナリ尤モヤップ島ニ閔シテハ以前御打合セノ次第モアルニ付右ノ除外ト為スコトヲ得ベク而シテ若シ英國軍ニ於テ冀望アルニ於テハ英國軍同島著ノ上日本軍ハ同島ヨリ引揚ルコト致スヘシ

(附屬書II)

乙 号

十一月一日加藤外務大臣ヨリ在本邦英國大使ハ手交ノ機密

覚書

日本國民ハ赤道以北ノ獨領諸島全部ノ領有ヲ主

張スベキニ付英國政府ノ支持期望ノ件

Confidential.

As regards the Note Verbale of this date, Baron Kato agrees with the view of Sir Edward Grey

為スヘキ最後ノ協定ニ障害ヲ及ホスコトナカルヘシトノ
サー、エドワード、グレーノ見解ニ同意ス

加藤男爵ハ日本國海軍カ英國海軍ト和親ニシテ且相互ニ利

益アル性質ノ共同動作ヲ為シ今尚之ヲ為シツツアル頗ル広

大ナル作戦区域ニ鑑ミ日本國民ハ當然赤道以北ニ位スル一切ノ独逸領諸島嶼ノ永久的保持ヲ主張スベキヨト並ニ帝國政府ハ相當ノ時期到達スル場合ニハ此目的ヲ達セムカ為メニ英國政府ノ支持ニ信頼セムトスルモノナルコトヲ茲ニ附記セムト欲ス

(右和文)
本日附口上書ニ閔シ加藤男爵ハ日英両國軍ノ為メ独逸所領ノ占領ハ同盟國カ戰爭終結後講和条件ヲ議定スルニ當リテ秘

(欄外註記)

〔大正二年十一月一日閣議決定〕

that all occupation of territory belonging to Germany by the Japanese and British forces will be without prejudice to the final arrangements which will have to be made when the allies come to settle terms of peace after the conclusion of the war.

Baron Kato desires to add that, in view of the very extensive operations in which the Japanese Navy has been engaged and is still engaged in co-operation of such a cordial and mutually advantageous character with the British Navy, the Japanese Nation would naturally insist on the permanent retention of all the German Islands north of the Equator and the Imperial Government will have to rely upon the support of the British Government for the accomplishment of that object when the proper moment arrives.

断絶スルニ至リ鎮守府要港部ハ出師準備ヲ実施シ且各其ノ防備部隊ヲ以テ沿海ノ警備ヲ嚴ニスルト共ニ緊要地区ノ防備ヲ施セリ

一、膠州灣方面ノ作戦

八月二十三日独逸國ニ対シ戰ヲ宣セラルヤ第一艦隊ハ其ノ主力ヲ黃海ヨリ東海北部ニ亘ル海面ニ配備シテ敵艦船ノ搜索警戒ニ任シ第二艦隊ハ直ニ膠州灣外ニ進出シテ攻撃ノ端緒ヲ開キ二十七日封鎖ヲ宣言セリ

此ノ時ニ当リ敵東洋艦隊ノ主力ハ南洋ニ潜ミ其ノ殘部ハ青島ニ拠リテ出テ斯我艦隊ハ如上ノ対勢ヲ持シテ戰機ノ發展ヲ俟チシカ八月末ニ至リ我攻城軍ノ第一次輸送開始ニヨリ第一艦隊ハ朝鮮南方海面ニ、第二艦隊ノ一部ハ黃海方面ニ於テ相策応シテ航路ノ安全ヲ確保シ或ハ直接ニ或ハ間接ニ輸送船隊ヲ掩護セリ爾後上村戰隊ハ旅順部隊ト協力シテ龍口ノ揚陸ヲ援助シ九月十三日ヲ以テ此ノ方面ノ任務ヲ終ヘタリ

此ノ間加藤第一艦隊司令長官ノ直率スル戰隊及柄内戰隊

岡田戰隊竝特務部隊ハ其ノ勢力ヲ膠州灣方面ニ集中シテ

日夜敵密ナル哨戒ヲ強行シ敵ヲ港内ニ抑圧スルト同時ニ掃海隊ハ陰惡ナル風濤ヲ冒シテ第二次上陸地点ニ対スル

一一 独領太平洋諸島占領一件 六五四

六七八

海面ノ清掃ニ努メ航空隊ハ屢々敵情ヲ偵察シ又高千穂ハ敵ノ海上通信線ヲ断チ以テ戦局ノ進展ニ応スルカ如ク行動セリ

九月中旬陸軍第一次輸送開始セラルルヤ第一艦隊ハ再ヒ

其ノ掩護ニ当リ上村戦隊及旅順部隊ハ主トシテ勞山湾ニ於ケル揚陸ヲ援ケ第二艦隊ノ主力ハ掃海面ノ漸進ニ伴ヒ陸上部隊ト協応シテ九月二十八日以来累次ノ攻撃ヲ敵右翼諸砲台ニ加ヘ同時ニ上村戦隊及岡田戦隊ト共ニ益々封鎖ヲ厳密ニセリ而シテ攻城軍ニ参加シタル海軍重砲隊ハ十月十四日以来湾内ノ敵艦ヲ砲撃シテ其ノ行動ヲ抑制シ尋テ青島要塞ノ攻撃ニ歎力セリ

十月下旬攻城ノ準備殆ト成ルヤ第二艦隊ハ二十九日以降

猛烈ニ敵砲台竝陣地ヲ砲撃シテ三十一日ヨリ開始シタル攻城軍ノ總攻撃ニ歎力シ十一月七日ニ至リ敵遂ニ降伏シタルヲ以テ同十日封鎖解除ヲ宣言シ此ノ方面ノ作戦ヲ終結セリ

此ノ作戦中英艦「トライアンフ」及駆逐艦「ウスク」ハ

第二艦隊ニ協同シ封鎖竝砲撃ニ参加シタリ

本作戦ニ於テ我ハ軍艦高千穂、駆逐艦白妙、第三十三号水雷艇、特務船第三長門丸、第六長門丸及弘養丸ヲ失ヒ

セリ是ニ於テ十月二十五日柄内司令官ノ率キル戦隊ヲ増遣セシカ十一月九日敵艦ハ「ココス」島ヲ侵シ反ツテ英艦「シドニー」ノ為ニ擊破セラレ茲ニ該方面ニ於ケル作戦ハ一段落ヲ告クルニ至レリ

五、太平洋方面ノ作戦

開戦ノ当初敵ノ一部ハ北米及布哇方面ニ在リ又曩ニ南洋方面ニ游弋セル敵艦隊ノ主力及膠州湾ヨリ脱出セル敵ノ所在ハ詳ナラス乃チ帝国海軍ハ宣戦後直ニ第一艦隊ノ一部ヲ以テ本邦北米間航路上ニ索敵スルト同時ニ逐次数隊ヲ南洋ニ分遣シ英國艦隊ト策応シテ敵主力ノ搜索ニ努メタルニ敵ハ巧ニ其ノ踪跡ヲ韜晦シタルヲ以テ我艦隊ハ先づ附近ニ散在スル敵ノ諸要地ヲ占領シテ其ノ拠点ヲ覆滅シ爾後作戦ノ進捗ニ資セリ

又北米方面ニ於ケル同盟艦隊ハ該海面ノ索敵ニ歎力シ併

三、東海及支那海方面ノ作戦

セリ

敵ノ巡洋艦「カイゼリン」、「エリザベート」砲艦「ヨルモラン」、「イルチス」、「ヤーヴアル」、「チーグル」、「ルックス」駆逐艦「エス九十」「ターグ」ハ総テ沈没又ハ破壊セリ

四、印度洋方面ノ作戦

我南遣艦隊ノ一枝隊ハ八月二十六日新嘉坡ニ向ツテ進発

シ英國東洋艦隊ト協同作戦ニ從事セリ當時該方面ニ於ケル敵艦ノ情勢分明ナラス為ニ同盟艦隊ハ一時待機ノ姿勢ヲ持シ附近海面ノ警戒ニ任シタリシカ九月十日敵艦「エムデン」突如トシテ印度洋東部ニ出現セシヲ以テ枝隊ハ

急速索敵ニ努ムルト共ニ輸送船隊護衛ノ為更ニ増勢シ英國艦隊ト協力、敵情ニ応シテ策動セリ然ルニ敵艦「エムデン」ハ爾後益々活動シ印度洋方面ノ航路頗ル危殆ニ瀕

セテ通商保護ニ從事中敵艦「ガイエル」運送船ヲ率キテ十月十五日「ホノルル」ニ入港シタルニヨリ恰モ近海ニ行動セル我艦隊ノ一部ハ同港外ニ急駛シテ嚴密ニ其ノ監視ニ任シ十一月七日該艦船カ遂ニ米国官憲ノ為ニ抑留セラレタルコト確認セラルルニ及ンテ之ヲ撤セリ

此ノ時ニ当リ敵ノ主力ハ智利沿海ニ現ハレ又曩ニ分散セル各方面ノ敵艦モ概ネ之ト合同セルノ情況判明シ太平洋上ノ作戦ハ自ラ新正面ヲ開クニ至レリ

以上ハ開戦以來各方面ニ於ケル海上作戦ノ経過ニシテ十一月上旬ニ及ヒ膠州湾、布哇竝印度洋ノ敵艦艇相踵テ破滅シ其ノ他ノ敵亦遠ク智利沿海ニ避退シ東洋ノ海上隻影ナキニ至リシヲ以テ茲ニ第一期作戦ヲ終了シ今ヤ第二期作戦ノ進捗中ニ在リ（終）